

様式1 平成25年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	飛騨市古川町	学校名	岐阜県立古城高等学校			
校長名	下平 貴昭	対象学年	1年生	人数	70名	
活動名	英語Ⅱ		時間数	約400時間	継続年数	2年
題材	1 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） [] ② 歴史（史跡他） [古川町の史跡等の見学] ③ 文化（その他） [古川町の英語地図作成] 4 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [] ⑤ 絆を深め、よりよいふるさとをつくる活動 [古川祭での英語ガイド] 6 その他（ ） []					
複数年継続するための工夫改善	○英語案内に向けた練習において、よりよい説明となるよう、今年度も普段から会話練習を授業内に盛り込み、今後の観光協会等からの依頼にも対応できるよう指導している。 ○今回の企画では、観光協会や商工会、飛騨市役所観光課、地元飲食店との連携を密にすることに努めた。地域と高校とのつながりを強くすることで、今後古川祭り以外の地元イベント等での生徒の活躍も期待できる。 ○新学習指導要領にのっとり、「書くこと」「話すこと」について適切に評価するための「Performance Test」として位置付けて実施する予定である。					
<p>1 ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎国の重要無形民俗文化財である「古川祭」や古い町並み等の観光資源を詳しく調べることで、郷土愛をはぐくむ。 ◎海外からの観光客が多い土地柄を生かし、英語を通して地域に貢献する。 ◎生徒が英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報を適切に伝えるコミュニケーション能力を養う。 <p>2 活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ①2人一組で地元飲食店を取材、及び古川の魅力を調査 ②自己紹介、飛騨弁・古城高校調べ ③日本語と英語を併記した案内地図完成（A4両面） ④道案内と古川の魅力を伝えられるよう、グループで英会話練習 ⑤クラスで発表（完成度の高いグループを表彰） ⑥国内外著名人（オバマ大統領、レディーガガなど計35通）に古川祭への招待状を作成し、郵送（自己紹介や町、祭りの紹介） ⑦古川祭で英語ガイドスタッフとして、作成地図を配布し、観光ボランティアを展開（600枚） <p>3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町を実際に歩き、地元飲食店で取材することで、お勧めの料理や町の歴史についても学び、異なる年齢層の人と話す貴重な体験となった。 （例：「人生のことも教えてもらった。『勉強できるのは日本が平和だから。外国には学校に行けない子もいる。』という言葉が印象に残った。自分が置かれた環境に感謝するようになった。）」 ・飛騨市観光協会と連携して、地元ガイドスタッフとして活躍した。 <p>4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な言語の使用場面を設定し、普段学んでいる英語が、実際にコミュニケーションの道具として使うことができるという経験を通して、普段の授業への取り組み方がより積極的になった。 ・国内外の有名人への招待状、当日の外国語ボランティア、広報ひだ、新聞各紙（朝日、中日、岐阜）、テレビ等からの取材を通して、地元で向かえる最後の祭りを最高のものにしたいという熱意を多くの人々に伝え、自分たちが地域に貢献できるという意識を持つことができた。 ・身近にありすぎて感じることの少ない地元の良さに改めて気付くことができた。 						